

悪魔の墓場 (1974)

DON'T OPEN THE WINDOW [米]
LET SLEEPING CORPSES LIE
FIN DE SEMANA PARA LOS MUERTOS
THE LIVING DEAD AT MANCHESTER MORGUE [英]
NO PROFANAR EL SUENO DE LOS MUERTOS [スペイン]
NON SI DEVE PROFANARE IL SONNO DEI MORTI
BREAKFAST AT THE MANCHESTER MORGUE

メディア 映画

ジャンル ホラー

製作国 イタリア／スペイン

色彩 Color

時間 94分

初公開日 1975/06/07

公開情報 ヘラルド

【キャッチコピー】

臓物をひっぱり出して喰いたい！かさぶたをはがして生血を吸いたい！ 重い墓石をはねのけて、冷たい土の中から一斉に立上った死人たち！

【解説】

日本を除くほぼ全世界にセンセーションを巻き起こしたジョージ・A・ロメロの「ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド／ゾンビの誕生」に、害虫駆除の超音波によって死者が甦えるという設定を付け加えた換骨奪胎した（というよりもパクった）ホラー。

郊外の友人宅に向かっていた芸術家ジョージ。だが彼のバイクは若い女性エドナの車によって誤って壊されてしまう。ジョージは仕方なく姉の元へ行こうとしている彼女の車に同乗させてもらう事になる。二人がやって来た田舎町では、超音波を使って虫の闘争本能を煽り互いに攻撃しあう事で害虫を駆除するという実験が行われていた。異変はすぐに起きた。エドナが不気味な男に襲われたのだ。しかもその男は数日前に死んでいると言う。彼女の姉の夫が殺害されるに至り、二人はそれが生ける屍ーゾンビである事を確信する。しかし、警察はそんな二人の言葉に耳を傾けないばかりか、経験豊富な警部はジョージこそ殺人事件の犯人ではないかと疑う。事件の謎を解こうと墓地に赴くジョージとエドナの前にまたもゾンビの群れが現れた。二人を見張っていた警官は殺され、傷を追ったエドナは病院に行くが、その死体置き場では一斉にゾンビと化した死体たちが目覚めていたのだ……。

今となっては非常にオーソドックスなホラー作品で、ショック演出および残酷描写も大人しい限り。舞台を狭く設定し、事件の目撃者を数人に絞った上で、話を信じない警察が主人公を犯人と決めつけるというミステリー仕立ての本筋も新味に乏しかった。ただ、イギリスの片田舎という雰囲気と、外科手術の縫い後も生々しい包帯まみれのゾンビなどの描写は悪くない。「ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド／ゾンビの誕生」が結局上陸しなかった我が国においては、人を食う“新しいゾンビ象”というイメージが定着しておらず、「エクソシスト」以降に起こったオカルト映画の延長線上の作品として宣伝された。

【クレジット】

監督	ホルヘ・グロウ	Jorge Grau
製作	エドモンド・アマティ	Edmondo Amati
脚本	サンドロ・コンチネンツァ マルチェロ・コスチア	Sandro Continenza Marcello Coscia
撮影	フランシスコ・センペレ	Francisco Sempere
特撮	ジャンネット・デ・ロッシ	Giannetto De Rossi

編集	ヴィンチェンツォ・トマッシ	Vincenzo Tomassi	
音楽	ジュリアーノ・ソルジーニ	Giuliano Sorgini	
出演	レイ・ラヴロック	Ray Lovelock	ジョージ
	アーサー・ケネディ	Arthur Kennedy	警部
	クリスチーナ・ガルボ	Christine Galbo	エドナ
	ポール・ベンソン	Paul Benson	ウッド
	アルド・マサッソ	Aldo Massasso	キンゼイ
	ジョルジョ・トレスチーニ	Giorgio Trestini	クレイグ
	ロベルト・ポッセ	Roberte Posse	ベンソン
	ホセ・ルイス・リファンテ	Jose Ruis Lifante	マーティン
	ジャンニーヌ・メストル	Jeannine Mestre	ケイティ
	フェルナンド・ヒルベック	Fernando Hilbeck	ガスリー